

## 第88回麻布獣医学会 一般演題6

# キジ飼養農場において発生した コクシジウム病及び壊死性腸炎

友好 将也, 大石 大樹, 入部 忠

山口県中部家畜保健衛生所

約110羽の繁殖用キジを飼養し、放鳥用の雛を生産する1農場において、コクシジウム病及び壊死性腸炎の発生がみられたので報告する。

## 1 発生状況

2012年6月6日に孵化した雛128羽が、6月30日から3日間で30羽死亡したことから当所へ通報があり、病性鑑定を実施した。症状は元気消失、沈鬱がみられ、その後斃死した。

## 2 材料と方法

生存キジ2羽、死亡キジ4羽について、剖検、病理組織学的検査、細菌学的検査、寄生虫学的検査及びウイルス学的検査を実施した。病理組織学的検査はHE染色及びPAS染色を行った。細菌学的検査は直接塗抹培養及び小腸内容物の定量培養を実施し、寄生虫学的検査は腸管内容物についてオーシスト数の算出を行い、あわせて検出したコクシジウムの同定を目的に主要な鶏コクシジウム5種に対する遺伝子検査を実施した。また、ウイルス学的検査はA型インフルエンザウイルス抗原検出キット、遺伝子検査及びウイルス分離を実施した。

## 3 成績

剖検では、全ての検体の小腸粘膜面に白色の結節が散発的にみられた。また、生存キジ1羽、死亡キジ2

羽においては盲腸が白色を呈し、腫大していた。病理組織学的検査では腸管及びファブリキウス嚢におけるコクシジウムの高度寄生、長桿菌及び短桿菌を伴う壊死性空回腸炎及び盲腸炎がみられた。細菌学的検査では、小腸内容物から *Clostridium perfringens* (Cp) 及び *Escherichia coli* (*E.coli*) が全検体で有意に分離され、菌量は Cp で  $10^5 \sim 10^7$  cfu/g, *E. coli* で  $10^7 \sim 10^8$  cfu/g であった。また、Cpの毒素遺伝子検査では、全株 a 毒素のみ陽性であり、マウス接種試験では48時間以内に死亡が確認された。寄生虫学的検査では、全検体から少なくとも2種類のコクシジウムのオーシストを検出し、OPGは小腸で平均  $1.94 \times 10^5$ 、盲腸で  $1.97 \times 10^6$  であった。また、検出したコクシジウムの遺伝子検査は全て陰性であった。なお、ウイルス学的検査は全て陰性であった。

## 4 まとめ

以上より本症例をコクシジウム病及び壊死性腸炎と診断した。コクシジウムの高度寄生により腸粘膜が傷害され、細菌が増殖しやすい状態にあったと考えられた。また、検出したコクシジウムは鶏と異なり、キジに特異的な種であることが推察された。対策として敷料の交換、畜舎消毒等を実施したところ翌日から死亡率は低下した。しかし、1週間後に再発生がみられたため、サルファ剤投与及び継続した畜舎の消毒等を実施したところ、その後の発生はみられていない。